

Ⅱ 集計客体の特性

1. 性別構成割合

受給者の性別をみると、厚生年金計では男子70.8%、女子29.2%と男子の割合が高くなっている。一方、国民年金計では、男子・女子の割合はおおむね同程度となっている。

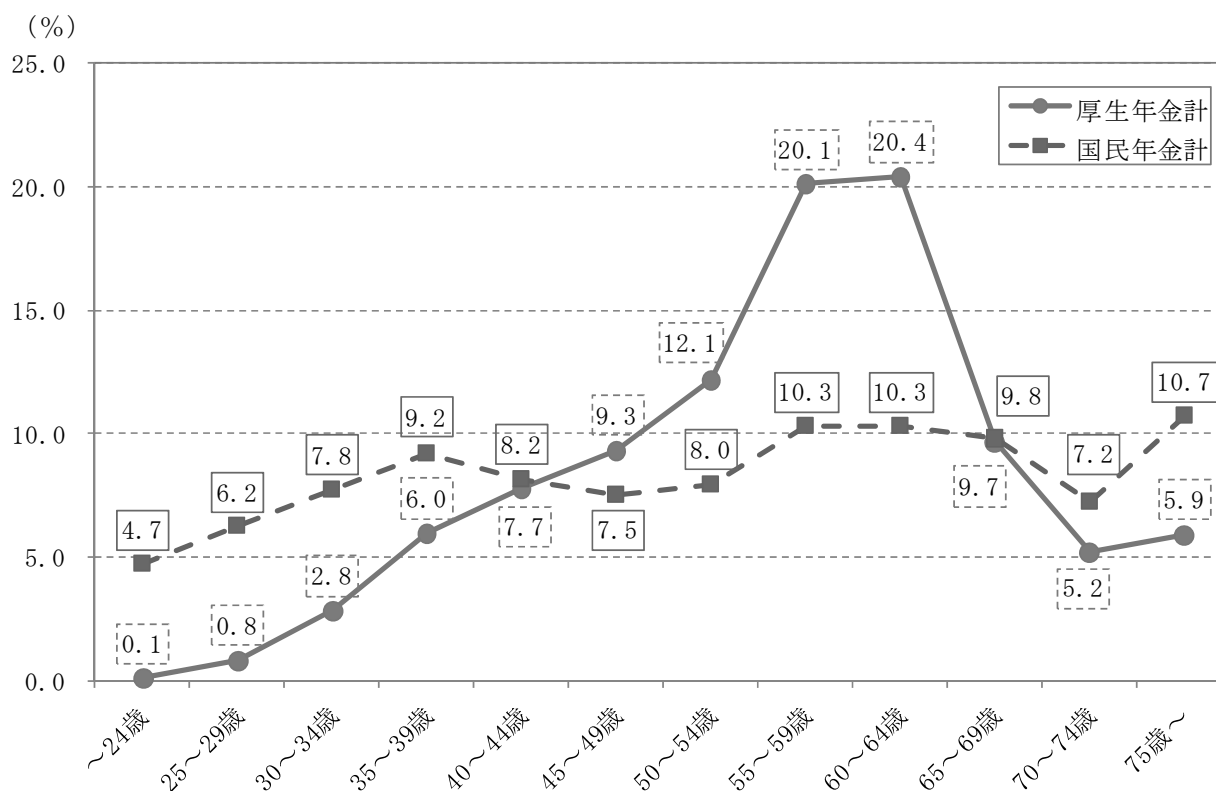
第Ⅱ－１表 制度・等級、性別受給者数及び構成割合

		計	男子	女子	計	男子	女子
		(単位：千人)			(単位：%)		
厚生年金・国民年金計		1,796	978	818	100.0	54.4	45.6
厚生年金	計	350	248	102	100.0	70.8	29.2
	1 級	62	47	15	100.0	76.6	23.4
	2 級	164	117	47	100.0	71.3	28.7
	3 級	124	83	40	100.0	67.4	32.6
国民年金	計	1,446	730	716	100.0	50.5	49.5
	1 級	669	334	335	100.0	50.0	50.0
	2 級	777	396	382	100.0	50.9	49.1

2. 年齢階級別構成割合

受給者の年齢階級別構成割合をみると、厚生年金計では、60歳代前半までは年齢が増加するにつれて割合が高くなり、60歳～64歳の割合が最も高くなっている。

第Ⅱ－２図 年齢階級別構成割合



3. 平均年金額

受給者の平均年金額をみると、厚生年金計は男子と女子の年金額の差が月額約2.7万円程度あり、障害の程度が重いほどその差も大きくなっている。

なお、国民年金では、若干女子の方が高いものの、年金額の差はほとんど見られない。

第Ⅱ－3表 制度・等級、性別平均年金月額

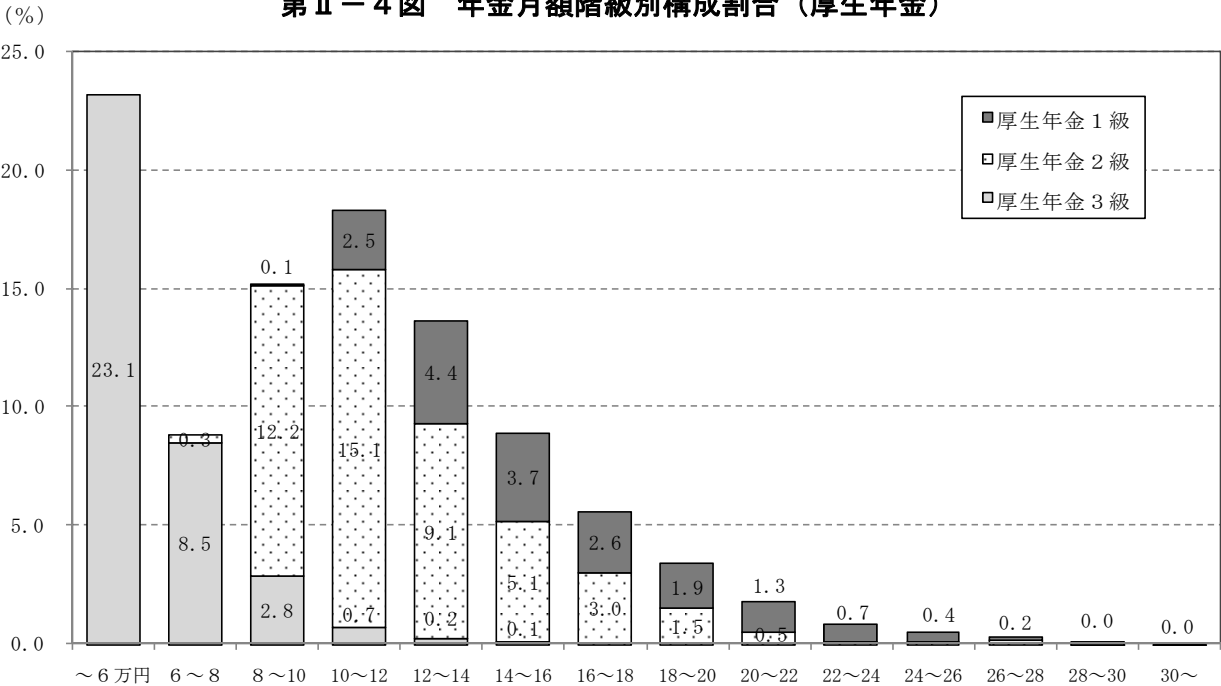
		計	男 子	女 子
		(単位：円)		
厚生年金・国民年金計		80,299	83,931	75,959
厚生年金	計	105,543	113,357	86,558
	1 級	157,339	166,167	128,495
	2 級	120,709	128,550	101,245
	3 級	59,440	61,937	54,281
国民年金	計	74,195	73,943	74,451
	1 級	82,773	82,757	82,790
	2 級	66,808	66,495	67,133

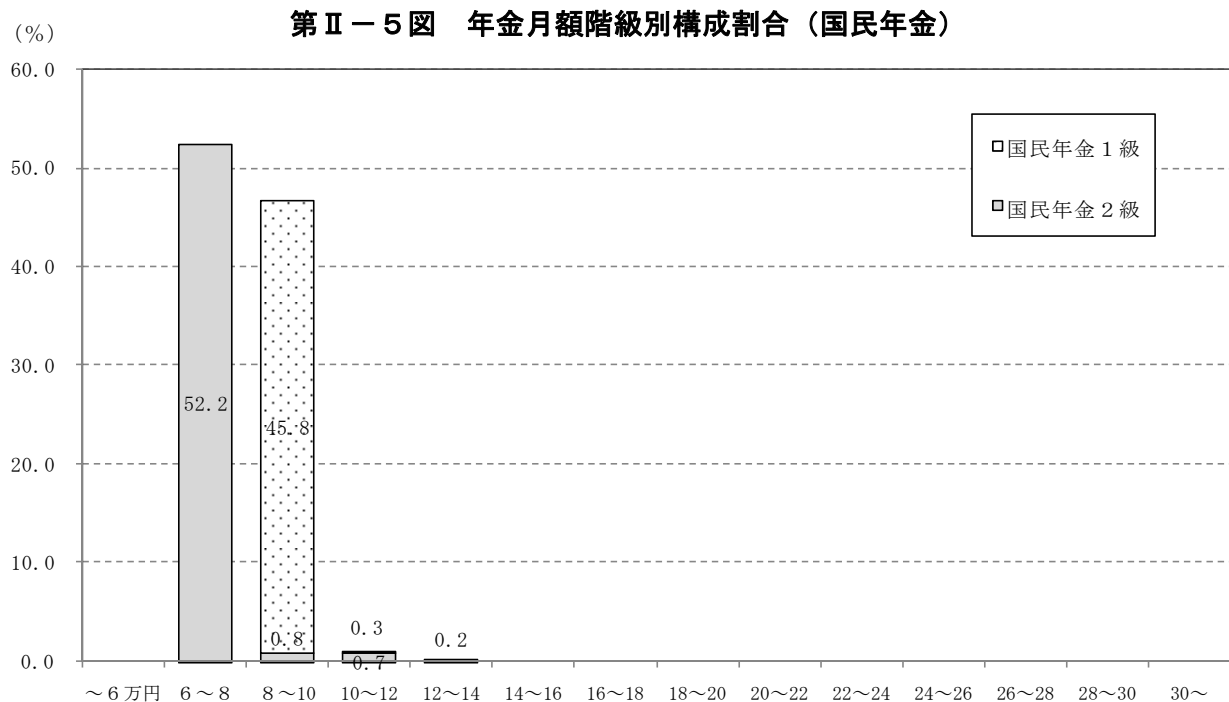
4. 年金月額階級別構成割合

厚生年金受給者の年金月額階級別構成割合をみると、1 級は12～14万円の階級、2 級は10～12万円の階級、3 級は6 万円未満の階級がもっとも多くなっている。

国民年金では、基本的に定額給付であり、一定の要件を満たす子に対する加算も定額であることから、第Ⅱ－5 図のとおり、6～8 万円、8～10 万円という特定の階級に集中している。

第Ⅱ－4図 年金月額階級別構成割合（厚生年金）





5. 傷病別構成割合

受給者の傷病別構成割合をみると、厚生年金・国民年金計では「精神障害」が27.9%、「知的障害」が21.9%、「脳血管疾患」が8.4%でこの3疾病が全体の半数以上を占めている。

厚生年金についてみると、厚生年金1級については「脳血管疾患」（32.1%）の割合が最も高くなっているが、厚生年金2級及び3級では「精神障害」の割合が最も高くなっている。

また、国民年金についてみると、国民年金1級については「知的障害」（27.7%）の割合が最も高くなっており、国民年金2級については「精神障害」（36.6%）の割合が最も高くなっている。

第Ⅱ－６表 制度・等級、障害事由別構成割合

	厚生年金・国民年金計	厚生年金				国民年金		
		計	1 級	2 級	3 級	計	1 級	2 級
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
精神障害	27.9	30.6	4.1	33.3	40.3	27.2	16.3	36.6
知的障害	21.9	0.0	0.0	—	—	27.2	27.7	26.8
脳血管疾患	8.4	15.1	32.1	15.5	5.8	6.8	8.6	5.3
中枢神経系の疾患	5.9	3.8	8.9	3.2	2.1	6.4	9.2	3.9
耳の疾患・外傷	5.5	0.9	2.8	0.6	0.3	6.6	13.1	1.0
視器の疾患・外傷	5.4	4.5	20.6	1.4	0.5	5.7	11.2	0.9
腎疾患	4.9	9.1	0.2	17.1	3.0	3.9	0.2	7.0
関節の疾患	3.6	4.2	1.9	2.9	7.0	3.4	2.9	3.8
循環器系の疾患	3.1	6.8	1.4	2.4	15.3	2.2	0.5	3.6
その他	13.4	25.1	27.8	23.5	25.7	10.6	10.2	11.0